

# わらびてし

127号



## 縄文時代のゴミ捨て場 (遠野市 新田 遺跡)

### 主な内容

災害復興事業に伴う遺跡  
発掘調査

県内の遺跡発掘調査情報

平成24年度の発掘調査に  
ついて

第33回埋蔵文化財展  
「岩手の宝をみよう  
～自然・文化、軽米の遺跡～」

縄文時代の人々は、食料を獲得するために狩猟採集をして暮らしていたというのは、皆さんが知っているところです。遺跡を調査すると、狩猟に使う石器や煮炊きを行う土器などの道具が出土することは珍しくありませんが、実際に獲得した食料が見つかることはあまりありません。見つかったとしても、それは炭化して残ったものがほとんどです。

新田 遺跡の調査では、縄文時代の前期中頃～現代まで続く沢跡が確認されました。その沢跡の岸边には、縄文人が廃棄した土器や石器のほかに、大量のトチノキやオニグルミ・クリなど堅果類の殻がみずみずしい状態で出土しました。これらが腐らずに残ったのは、現在も清らかな水が流れる新田沢のほとりに遺跡があったためです。

写真は縄文時代晩期中頃の岸边の様子で、中身を取り出したクルミの殻がまとめて捨てられており、縄文人の暮らしの一端が見て取れます。

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 北田 勲

# 震災復興事業に伴う遺跡発掘調査



① 縄文時代中期・後期の「捨て場」から大量の遺物が出土

堂の前貝塚 ( 陸前高田市 )

堂の前貝塚は、陸前高田市の中心から東に4 km、米崎町字堂の前にあります。ここは、箱根山 ( 標高445m ) の南西山麓の、細長い丘陵の先端にある縄文時代の集落跡です。遺跡は、なだらかな丘陵上の、東西300m、南北200mの範囲に広がっています。中心部の標高は約30mで、海岸までは300mほどの近さにあり、海山の幸に恵まれた所です。この遺跡は、北側斜面に貝や骨が散らばり、広い場所から土器や石器が見つかるため、貝塚遺跡として古くからよく知られてきました。

昭和46 ( 1971 ) 年、貝層の調査を目的として、最初の発掘調査が行われました。その結果、縄文中期から後期 ( 4,500 ~ 3,500年前 ) にかけての縄文土器や石器、カキ等の貝殻、イノシシやシカ等の獣骨、マグロ等の魚骨が出土しました。平成8 ( 1996 ) 年から翌年には、農道改修に先立つ発掘調査が実施され、遺跡の中心付近から多量の縄文土器と共に、柱穴や貯蔵用の大きな穴がたくさん見つかります。

今年度は、震災による個人住宅の高台移転のための用地造成に関して、3か所、合計で約3,300㎡の発掘調査が行われました。遺跡の東側と西側の調査区では、丘陵の傾斜地から、大量の土器や石器が斜面を埋め尽くすように捨てられている「捨て場」が見つかり、大コンテナで400箱にも及ぶ縄文土器や石器が出土しました。ほとんどの土器は破片ですが、完全な形のものも数多く出土しています。「捨て場」からは火を燃やした跡が多数見つかり、「捨て場」がただのゴミ捨て場ではなく、

それ以上の役割があったことが推測されます。また、貝層がないにもかかわらず、貝殻や獣骨、魚骨が少なからず出土した点が注目されます。

一方、遺跡の中心部のほぼ平らな調査区からは、傾斜地での状況とは対象的に、遺物の出土量は極めて少なく、柱穴のような小さい穴や大きくて深い貯蔵用の穴が集中的に見つかります。また、この調査区から発見された竪穴住居跡には、4,000年余り前の縄文時代中期後半の、複式炉という複雑な構造の炉がつくられていました。

このような調査の結果から、遺跡中央部の比較的高く平坦な場所は居住域として住居が集中し、付近には貯蔵穴などの付属施設がつくられていること、それよりも下方の丘陵の斜面は「捨て場」として利用されていることがわかり、集落の構造を考える上での大きな手がかりとなりました。

震災復興関連の発掘調査は、来年度以降増加する見込みで、堂の前貝塚でも数か所の調査が予定されています。今までの調査の結果に加え、今後の調査によって、また新たな事実が明らかになることと思われます。

陸前高田市教育委員会 遠藤勝博



複式炉の検出状況

**2** 市内で初の製鉄関連遺構を調査

(大船渡市)

大船渡市では、平成24年度に6件の発掘調査を行いました。復興事業関連の調査は5件あり、うち4件が市教委で関った発掘調査でした。概要は下記表にまとめました。

今年度は、復興事業に伴う大規模な試掘調査が増加し、鍛冶沢遺跡と船造遺跡を含む4遺跡の新発見がありました。

鍛冶沢遺跡は、大船渡市内で初となる製鉄関連遺構の調査となりました。時代を特定できる遺物の出土がなく、詳細な時期は不明ですが、製鉄炉に伴う作業面が時期差をもって重複して確認されました。製鉄に伴う廃棄層からは、鉄滓や炉壁などが約1.8トン出土しました。

船造遺跡は、越喜来湾を臨む西向きの緩斜面に立地します。耕作により地形が改変されていましたが、改変を免れた範囲より縄文時代中期中葉から後葉の竪穴住居跡を中心とした集落跡が確認されました。

清水遺跡は、県教委から調査員の派遣支援をうけて調査しました。小湾を臨む南向きの丘陵地に立地し、緩斜面中に縄文時代前期初頭・中期末葉の竪穴住居跡等が確認されました。特に、

平安時代の鍛冶滓を伴う竪穴住居跡は、古代の遺跡が少ない気仙地方にとって稀少な例となりました。

宮野貝塚は、清水遺跡の東側に隣接する緩やかな南向きの丘陵地一帯にあります。昭和15年以降、18回目の発掘調査となり、その成果より、縄文時代前期から弥生時代前期まで断続的に居住空間として使用されていたことが知られています。今回の調査では、縄文時代後・晩期、弥生時代前期の遺構・遺物が多く発見されました。特に弥生時代の包含層では、礫層を挟んで新旧関係をもつことが確認され、気仙地方における弥生時代前期の土器変遷を知る上で重要な資料を得ることができました。

大船渡市教育委員会 鈴木めぐみ



宮野貝塚調査風景

平成24年度大船渡市教育委員会復興事業関連発掘調査概要表

遺跡名	所在地	試掘期間	発掘調査期間	調査面積	目的	調査した遺構・時期
鍛冶沢遺跡	三陸町越喜来字小出地内	H24.8.1 ~ 8.24 (県教委派遣支援)	H24.11.1 ~ 12.28	411㎡	被災小学校建設に伴う取り付け道路	製鉄関連の炉3基 焼土遺構1基 製鉄関連の廃棄層等
船造遺跡	三陸町越喜来字浪板地内	H24.7.3 ~ 7.7	H24.11.1 ~ 12.28	710㎡	防災集団移転	竪穴住居跡8棟(縄文中期中葉) 土坑16基(縄文中期) 焼土遺構2基等
清水遺跡	三陸町綾里字清水地内	H24.8.1 ~ 8.2	H24.9.10 ~ 10.31	800㎡	宅地造成(震災関連)	竪穴住居跡10棟(縄文前期・中期、平安時代) 土坑2基等
宮野貝塚	三陸町綾里字宮野地内	H23.6.14	H24.11.1 ~ 12.28	146㎡	個人住宅(震災関連)	竪穴住居跡2棟(縄文後期中葉) 土坑23基(縄文後・晩期) 遺物包含層(弥生前期~縄文後期)等



③ 見晴らし良好！  
山上の遺跡調査

新館遺跡（野田村）

野田村では、東日本大震災からの復興のために、新たな高台へのまちづくりが進められています。そこで、そこに埋もれていた遺跡について、開発で壊れるかわりに調査記録として後世に残すため、発掘調査を行いました。

新館遺跡は、三陸鉄道北リアス線陸中野田駅の南西約0.7kmに位置し、標高約42m、周囲の水田との比高差30～40mの小高い山の上にあります。遺跡からは、宇部川が流れる平野が見渡せ、野田湾までを望むことができます。

発掘調査の結果、掘立柱建物跡、竪穴建物（住居）跡、土坑、堀（大きな溝）が発見されました。堀は、遺跡の中でも高い北部エリアについて、概ね30×40mの楕円形の範囲を巡っていました。断面V字形に掘られており、幅は最大約3m、深さは最大約2mでした。掘立柱建物跡は丘陵上の各所に認められましたが、竪穴建物（住居）跡や土坑は丘陵斜面を中心に分布し、堀で囲まれた範囲には認められませんでした。

この場所は、天正20（1592）年の野田城破却後に野田政親が館を築造した場所であると



検出作業中の堀

指摘されていきました。発掘した結果、遺跡北部において、中近世の銅銭が散在的に出土しました。しかし、竪穴建物（住居）跡や堀からは、平安時代のもと考えられる土師器や須恵器と、鉄製品、琥珀が出土しました。

一般的に遺物を伴うことの少ない掘立柱建物跡などについては、中近世の館跡に関連する可能性が考えられます。しかし、平安時代にも集落が営まれたことが新たに判明しました。新館遺跡は平坦な場所が少なく、平野から登るのも楽ではない、一般的には人々が暮らしやすい場所ではなかったと想像されます。こうした場所をあえて利用したのは、周囲より高く、見晴らしが良好であるという特徴を利点とした特殊な理由、目的があったと思われます。さらに、東北部では平安時代は蝦夷と朝廷側が様々に接触した時代であり、こうした歴史的な動きと関連している可能性も考えられます。

新館遺跡は平安時代、中近世に利用された歴史ある場所でした。今度は、歴史的な震災を乗り越えた人々が、ここに住むことで新たな歴史が始まります。

新館遺跡は平安時代、中近世に利用された歴史ある場所でした。今度は、歴史的な震災を乗り越えた人々が、ここに住むことで新たな歴史が始まります。

岩手県教育委員会  
事務局生涯学習文化課

田村隆太郎



西上空から遺跡と野田の平野を望む

## 県内遺跡発掘調査情報

## 池の北西側に岬状の張り出しを確認

特別史跡無量光院跡 ( 平泉町 )

無量光院跡は奥州藤原氏三代秀衡が建立した寺院です。今年度の25次調査では昭和27年の調査で確認された東島3棟の礎石建物(西方建物跡・中間建物跡・東方建物跡)の再調査 東島の構造把握 池北西側の岸及び池底の確認を目的に調査を行いました。

東島の建物跡：西方建物跡は3×3間の総柱で、規模は7.88m四方です。柱の間隔は中央が3.6m、それ以外は2.1mと中央の間隔が広がっていました。根石は、5～20cmの石で構成されており、60～80cmの円形に配置されています。根石と根石の間には15～25cmの川原石が列状に並んでおり、柱と柱を地面で繋ぐ横材である「地覆」の基礎と考えられます。

西方建物跡は、立地と建物の構造から舞台の可能性が高いと考えられており、平成22年に中島正面の池から見つかった舞台と同時期存在なのかどうか問題となっています。

中間建物跡は、礎石が失われ、かろうじて残った根石から、建物の範囲を確認することが出来ましたが、全体的に残りが悪く、建物の詳細については不明な点が多く残されています。

東方建物跡は1次調査で東西方向2.33m、南北方向20.4m(1×9間)の大きさがあると報告された建物です。

調査の結果、建物を構成する柱筋がずれていること、根石を構成する石の大きさも6～20cm

と、20～25cmと異なることが確認されました。

同一の建物を構成すると考えられていた根石の中で柱筋がずれている上に、石の入り方も異なることから、同一の建物ではなく、複数の建物に分かれる可能性が考えられます。また、複数の建物になる場合、同時存在なのか新旧関係があるのかが課題です。

東島の構造：断割調査の結果、基底部分は地山を削りだして、その上に最大1.2m盛土して作っていたことが分かりました。また、版築技法のような丁寧な盛り方ではないようです。

池北西側：中島からみて北側の部分に調査区を設定し、池の北西側がどの程度広がっているのかを確認しました。その結果、南東側に延びる岬状の張り出しと、北西側に入り込む入江があることが分かりました。

池底は後世の削平で残りは悪いものの、池底を整えるために粘土を貼っている所がありました。また、局所的に小石が池底に広がる所がありました。



東方建物跡



岬と入江

今年度から、12世紀当時の庭園の姿に戻す整備が始まりました。当面は、整備と同時に調査を行うこととなりますが、次年度は東島の建物群の性格及び変遷を確認するため、追跡調査を行う予定です。

平泉町教育委員会 島原弘征

# 平成24年度の発掘調査について

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが今年度県内で行った発掘調査を振り返ってみました。

## はじめに

平成24年度の発掘調査は20遺跡、122,042㎡に着手しました。そのうち4遺跡は東日本大震災の復興に伴う調査です。10市1町1村が対象となり、復興地の事情も考慮し可能な範囲で調査期間を延長し12月中旬に終了しました。来年度に継続する遺跡もありますが、調査成果の一部を時代別に紹介します。

## 1. 縄文時代

北上市千苅遺跡、遠野市新田 遺跡、田野畑村野場 遺跡、釜石市屋形遺跡、大船渡市中野遺跡などで、集落跡や土器等を捨てた遺物包含層が見つかりました。

千苅遺跡は、昨年に続き晩期の遺物包含層と住居跡が見つかりました。北上川の西側に形成された自然堤防上に立地しています。砂地の微高地から後背湿地に落ち込むあたりに晩期から弥生時代にかけての遺構があったようです。

新田 遺跡も昨年からの継続調査で、沢の流れ7回も切り替わっていた様子が明らかになり、前期から晩期の大量の遺物包含層が沢沿いに形成されており、土器97箱や石器19箱・木の実62箱等大量の遺物を回収しました。

野場 遺跡と屋形遺跡・中野遺跡は震災・津波復興に伴う調査です。野場 遺跡では、集落移転予定地から晩期の集落跡32棟が発見されました。屋形遺跡は、斜面の道路予定地から早期～晩期・弥生時代まで継続する遺物包含層が見つかりました。中野遺跡からは、前期の住居状遺構2棟、中期の竪穴住居跡3棟などの集落が見つかりました。いずれの遺跡も来年度に継続しますが、スピード感を持って進めます。



新田 遺跡 遺物包含層



野場 遺跡 住居跡群

## 2. 弥生時代

北上市の立花南遺跡から、前期の土器や環状の石斧などまとまった遺物が見つかりました。そのほか、奥州市の小林繁長遺跡や釜石市屋形遺跡からも多くの土器片が見つかりました。

## 3. 古墳時代

奥州市にある日本最北の前方後円墳「角塚古墳」の北東側にある石田 遺跡と沢田遺跡から、昨年に続き集落跡と墓跡が見つかりました。「角塚古墳」を作った人々の生活の様子が、少しずつわかってきました。

## 4 . 奈良・平安時代

奥州市の石田 ・ 遺跡・沢田遺跡・漆町遺跡・古城林遺跡、盛岡市二又遺跡、北上市千苅遺跡、宮古市松山館跡等があります。石田 ・ 遺跡や漆町遺跡など角塚古墳周辺では古墳時代以降に集落が拡大していったようです。

二又遺跡も昨年に継続する調査です。道路沿いの細長い調査区から、竪穴住居跡10棟と建物跡・土坑などが見つかりました。

北上市千苅遺跡は、北上川西側に形成された自然堤防上にあり、縄文時代の人たちの生活の痕跡も見つかっています。主に平安時代前半の竪穴住居跡34棟・竪穴状遺構9棟・掘建柱建物跡5棟などの大きな集落が見つかりました。竪穴住居跡は、1辺9m以上・深さ1m近くもある大きなものがあり、何か特別な集落がこの川べりにあったのかもしれませんが。

松山館跡は平安時代の竪穴住居跡7棟や鍛冶遺構3基などが、見つかりました。当時も津波に備えて高台に移転したのかもしれませんが。

## 5 . 平泉時代

平泉町の特別史跡無量光院跡で県道の下で遺構確認調査を行い、池の跡や溝跡、整地層を確認しました。池からの排水溝も見つかり、12世紀のかわらけ3箱、陶磁器1箱なども見つかりました。

また、奥州市漆町遺跡からも12世紀の陶磁器が多く見つかりました。



飯森場遺跡 空撮全景

## 6 . 中世

二戸市不動館跡、宮古市松山館跡、陸前高田市飯森場遺跡など中世の城館を調査しました。

昨年に継続する不動館跡では、西側の曲輪の周囲を堀が巡り、その西は自然地形の崖面であることがわかりました。遺物の中には胴丸鎧の一部である杏葉片や漆塗り小札などがありました。

松山館跡からは製鉄遺構が4基見つかり、中世の製鉄技術の解明が期待されます。

飯森場遺跡は曲輪2ヶ所、切岸1ヶ所、虎口1ヶ所などが見つかり、自然地形を利用した城館の普請の跡が確認されました。

## 7 . 近世

奥州市古城林遺跡・石山遺跡、一関市石畑遺跡などから見つかっています。

古城林遺跡では中世から近代まで含む可能性もありますが、明確な建物跡は7棟で、ほかに1,600個以上の柱穴、土坑や溝跡も見つかっています。

石山遺跡や石畑遺跡からも建物跡や溝跡、井戸跡などが見つかっています。

紹介した遺跡以外でも、多くの遺構や遺物を調査しました。これらの成果は、それぞれ地域の歴史を解明するために欠くことのできない貴重な資料となります。今後報告書の中で明らかにしていきます。

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

佐々木清文



石田 ・ 遺跡 古墳時代の遺物出土状況

## 第33回埋蔵文化財展 合同展

平成24年度岩手県立博物館移動展・岩手県立埋蔵文化財センター第33回埋蔵文化財展

岩手の宝をみよう ～ 自然・文化、軽米の遺跡 ～

平成23年度の埋蔵文化財展は、東日本大震災への対応等のために中止となりましたが、平成24年11月22日(木)～25日(日)に軽米町農村環境改善センターを会場に開催されました。昨年までは岩手県立博物館との合同展でしたが、今年から広く県民の皆様方に文化芸術を通して音楽や美術にも親しんでいただくために岩手県民会館と岩手県立美術館が岩手県文化振興事業団プレゼンツとして参加しています。

当センターからは、軽米町内で調査した31か所の遺跡の中から12遺跡を選んで調査時の遺物出土状況や住居の写真をパネルで紹介しました。また、縄文時代草創期(約1万6,000年前)から早期・前期・中期・後期・晩期、弥生時代(約2,300～1,700年前)の各コーナーには、食や住まいに関連した土器、石器、土製品、土偶、装身具等を352点展示しました。特に装身具の「ヒスイの勾玉」「滑車形耳飾り」や紀伊半島以南に生息するイモガイをまねて作った「イモガイ形土製品」に注目が集まりました。

会期中4日間の参加者数は延べ383人でしたが、地元はもとより隣県の八戸市や弘前市からも熱心な方々の来場があり、盛況な埋蔵文化財展になりました。

### 第33回埋蔵文化財発掘調査技術講習会

平成24年12月7日(金)午前10時から岩手県立博物館を会場に、市町村の埋蔵文化財関係者を対象に行われました。

午前中は、仙台市教育委員会の斎野裕彦氏が「仙台平野の弥生時代の津波痕跡」について、午後は岩手大学教育学部教授土井宣夫氏が「岩手県内の火山灰と岩手噴火の影響および北上低地帯の地形」について講義が行われました。



発行 岩手県立埋蔵文化財センター  
編集 (公財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185  
電話 019-638-9001  
E-mail i-maibun@echna.ne.jp  
URL <http://www.echna.ne.jp/imaibun/>  
発行日 平成25年2月28日  
印刷 河北印刷株式会社